

夢子には大翔(ひろと)というヤリ友がいる。

当時付き合っていた恋人と別れ、一人でヤケ酒しているときに話しかけてきた男だった。

恋人と別れ人肌が恋しかった夢子は拒否する気も起きず流されることにしたのだ。

気が済むまで一緒に飲んで、そのあとホテルへ。

大翔はセックスの最中もどちらかというと夢子が気持ちよくなることを楽しんでいるようで、ありがたいことに夢子の欲をしっかりと満たしてくれた。

体の相性もいい、と思う。初めてのセックスでもイけたし。

恋人と別れたばかりで恋愛なんてしばらくしたくないと思っていた夢子にとって、大翔は都合のいい相手だった。

けれど、次の恋愛に進むためにはこんなことしている場合ではないのだろう。夢子もそれは分かっていた。

体を慰めてくれる相手に甘えていてはいけない。

次の健全な出会いが欲しければきっとこの関係はどこかで切らなければいけないのだ。

そうは思っているけど夢子は自らの性欲に逆らえず、ズルズルと大翔との関係が続けてしまっていた。

(…いつもなら飲み行ってからなのに、直で家に呼ばれるの珍しいな。ていうか初めてじゃないかな?)

その日、夢子は自分の家からまっすぐ大翔の家に向かっていた。

いつもなら外で集合して適当なところで食べて飲んで、それからどちらかの家に行っていたのに。

(やってからご飯行くのかな～、そんなに溜まってるのか？先週会ったばかりだけど)

大翔とはお互いの家を行き来するほどの仲になっていた。

することと言えばセックスなのだが、お互いの目的が一致しているおかげで距離はすぐに縮まった。

(性欲満たしてから食欲満たすのもアリか)

ぼんやりとそんなことを考えながらインターホンを押す。

中から微かに足音が聞こえて、すぐにドアが開けられた。

「いらっしやい、待ってたよ」

いつもより弾んだ声の大翔。

その様子に引っ掛かりつつ、夢子は慣れた様子で靴を脱ぎ中へ入っていく。

——そしてリビングのドアを開けて固まった。

「お、生の夢子ちゃんだ、初めまして～」

「大翔から話は聞いてるよ、初めまして、夢子ちゃん」

部屋の中に知らない男が二人。

細身の男と体格の良い男がソファーベッドから立ち上がった。

夢子がこの部屋に来るといつもすぐ背もたれが倒され

るソファ。

「え……」

「俺の友達、響(ひびき)と圭佑(けいすけ)だよ」

細身のほうが響といい、体格の良いほうが圭佑と言うらしい。

夢子が二人の顔を認識して改めて大翔を振り返ると大翔は笑っていた。

「夢子のこと話したら会いたって言うからさ。夢子もマンネリ解消になっていいでしょ？」

マンネリ…？

そんなこと考えたこともなかった。

大翔とのセックスに不満なんてない。口にしたことももちろんない。

そして、「マンネリ解消」と言うくらいだから、今日はこの二人と大翔と夢子でセックスすることなのだろう。

(え、4P…？えええ？まじ…？)

確かに夢子は初対面の大翔とその日のうちにセックスした。

けれどそれは恋人と別れた直後で心が荒んでいたからで、普段からそんなことしているわけじゃない。大翔が初めてだった。

複数人を相手になんかしたことがない。

夢子が固まっていると響が近づいてきて手を取られた。

「緊張してる？大丈夫だよ、おいで〜♡」

響に手を引かれているうちにソファの背もたれは圭佑に倒されている。

このままソファまで連れていければセックスすることになってしまう。

男三人に囲まれれば逃げ場なんてない。

(……でも、逃げる必要ある？大翔の友達ならきっとひどいことはしない、と思う。セックスするだけ。気持ちよくなるだけ)

バッグとコートは大翔に取られラックにかけられた。

そして流されるままソファの端に腰を下ろすと「そこじゃない」と言わんばかりに圭佑に抱え上げられソファ

の中心に移動させられる。

響と圭佑が夢子を挟んで、すぐに大翔もソファへ乗り上げてきた。

「キスしようね」

座る夢子の真正面から。

大翔は夢子の下半身を閉じ込めるように近づいてくる。

(ああ、ほんとにしちゃうんだ)

世間話すらなく始まろうとしている行為に、緊張なのか期待なのか、顔が熱い。

大翔の唇が薄く開いたのを見て夢子は目を閉じた。

ふに♡

軽く触れて、

ちゅ♡

下唇を啄まれ、

ぷちゅ、ちゅ♡

唇が重なってから、

れ……、♡

舌がゆっくり差し込まれた♡

と思ったら。

「夢子ちゃんキスおっけーなんだ、俺もしたい♡」

「あ、ちょっと響」

大翔から引き剥がすように響に肩を抱かれ♡

夢子がそれに反応する暇もなく上を向かされ響の唇が
夢子の唇を覆った♡

れ♡れろ♡

ちゅぷ♡ちゅ、ちゅ♡

(うわ…)

夢子の肩がピクッと跳ねる♡

ちゅっ♡ちゅ♡

れろ♡れ〜…♡

唇を押し付け粘膜を密着させながら舌が口内を探っ
てくる♡

優しい大翔のキスとは違う、遠慮のない動き♡

(大翔の舌じゃない舌…感触全然違う、いや違うのは当
たり前なんだけど…)

れ♡れる♡れる♡

れ…♡れ…♡ちゅっ♡ちゅろっ♡

「……っふ♡」

長い舌が舌に絡むように擦れて♡

その感触に背中がゾクゾクと震えてしまう♡

しつこく撫であげてくるその舌に、夢子はいつの間にか口を開けて精一杯答えていた♡

「気持ちよさそ…♡」

夢子が夢中になっているうちに大翔と圭佑が夢子の服を脱がしていく♡

ボタンを外されホックを外されキスの合間に抜き取られて♡

三人の中心にいる夢子だけが肌を露出させられていく♡

「ふ、っ♡ん♡……っ、ん♡ん、あ♡」

「…キス好き？かわい～ね♡」

「俺にもさせる」

響にとろけた顔を至近距離で見られていると今度は圭

佑が夢子の体を引き寄せた♡

露出させた肌の感触を確かめるように大きな手のひらを滑らせながら夢子の顔を上へ向かせる♡

「は、っあ、んむ♡」

ぢゅ…っ♡

「んあっ♡」

唇を強めに吸われ♡

ちゅる♡れっ♡れる♡

「ん`ッ♡う♡」

入ってきた舌が舌を絡め取り♡

ぢゅう♡ぢゅ、ぢゅっ♡

「は、アッ♡あ`、ア♡」

舌を外へ誘い出されたと思えば根元から先端まで吸い上げられた♡

「じゃあ…その間に夢子ちゃんの乳首触ってあげようか♡」

「俺も♡夢子、乳首好きだもんな♡」

両側から胸の曲線を辿って乳首へ近づいてくる指♡

薄い皮膚を指先で撫でられるだけでまた背中がピリピリ♡と反応している♡

その指はゆっくりと先端へ近づいてきて♡

二人とも合わせたように同じタイミングで両乳首を掠めた♡

「…………ツ！♡♡」

ちりっ♡♡

一瞬で乳首に火がついたように熱くなる♡

反射的に背中を丸めてしまって圭佑にそれを咎められるように肩を抱かれた♡

「すごい乳首勃ってきてる～♡まだ一瞬触っただけだよ？」

「むくむく♡って大きくなって…もっと触ってほしいんだよな♡」

すり♡すり♡

響の指が幹を上下に撫で♡

くる♡くる♡

大翔の指が乳首の周りを撫で回す♡

「ふっ♡う♡ん♡ あっ♡う、ん…アっ♡」

体がビクつくのを我慢できない♡

手は拳を握りしめ足はバタバタとソファの生地を蹴る



「こら、乳首イイからってキスサボってんなよ」

ぢゅう…ッ♡♡

「ん` あッ♡♡あ、は♡ア♡」

「キスより乳首のほうが気持ちいいよね〜♡」

「もう吸っちゃおうか、夢子の乳首も早くそうしてほしいみたいだし♡」

「ん`、……ッッ！♡♡」

ぬめった粘液が♡

優しく勃起した乳首を包む♡

そして、

ちゅっ♡

れら、れら♡

響は優しく吸い上げ、大翔は口内で勃起をあやすように舐め始めた♡

ちゅ♡ちゅ、ちゅ、っ♡ちゅ♡

れられら♡れ♡れろ♡れろ♡

「あ`、ッ♡♡んっ♡あ、あッ♡あ、うッ♡」

舌を舌で絡め取られ♡

乳首を吸われ♡舐められ♡

(なにこれえ…♡キスされながら両乳首舐められて♡こんなの初めて♡舌気持ちいい♡キスも乳首も気持ちいい…♡♡)

頭がぼーっとして、ときどき体がビクっ♡と反応して♡

顎が上がってしまう♡舌を突き出し圭佑の舌をねだって、胸の先端をもっと、もっと、と突き出してしまう♡

「とろけてんな～…♡」

唇を合わせたまま圭佑にそう言われ夢子は薄く目を開けた♡

その視界もぼやけている♡

「…夢子さあ、おまんこもうぐっちょぐちょじゃん♡いつもよりすっごく濡れてる♡」

「ふあっ♡」

大翔がそう言いながら夢子のそのぬめりを確かめるように割れ目を指でなぞった♡

それから十分に濡れた指がゆっくりと、ほんの少し上へ上がってきて♡

夢子がその予感に身構えるのと同時に大翔の指がクリトリスへ触れた♡

まだ皮を被ったその粒を、愛液を纏った指が軽く押す♡

「んうっ♡」

「夢子ちゃんクリ好きなんだ？」

「好きだよね、夢子♡」

軽くクリトリスを圧迫していた指が♡

くちゅ♡くちゅ♡

圧迫したまま上下に動く♡

「あッ♡あ、あ♡」

クリトリスが烧けるように熱い♡

まるで勃起促進するように擦るから痛いくらい勃起上がっていく♡

快感に体をしならせる夢子を見て大翔はクリトリスに触れたまま、また乳首に吸い付いた♡

ぢゅ…っ♡ぢゅ、♡ぢゅ♡

絡め取られる舌を一生懸命に伸ばし♡

ちゅ♡ちゅっ♡ちゅく♡ちゅく♡

れ♡れろれる♡れられら…♡

突き出した胸の先端を吸われ舐め回され♡

くちゅ♡ちゅ♡くちゅ、くちゅ♡

クリトリスは細かいストロークで擦られる♡

「舌、動かすの忘れちゃうくらいクリ気持ちいいんだ？
♡舌がへろへろになってて可愛いな♡」

「これで一回イってどうか♡」

「キスされながら乳首吸われて舐められて、クリいじられてイっちゃえ♡」

「ん、うゝ♡…っ、あ♡」

弄ぶような動きだったそれぞれが♡

ぢゅ♡ぢゅる♡れ…♡れる♡

舌を絡め取り♡

ちゅくちゅくちゅく、ちゅっ♡ちゅっ♡ちゅ…っっ♡

れられら♡れるれろっ、れろれるろ♡

乳首を細かに啄んで、舌で往復して♡

くちゅっ♡くち、くちくち♡くちゅくちゅくちゅくちゅ…♡

クリトリスを圧迫したまま上下に擦る♡

夢子をイかせようとしている♡♡

(すご♡全部されてる♡♡舌も乳首もクリも♡♡私のことイかせようとしてる…)

夢子はされるがまま三人に身を委ねた♡

ときどき快感に跳ねる体が熱くなって突っ張っていつて…♡

クリトリスがぷくぷくと蠢いて♡

「…夢子イきそうだね♡」

大翔は乳首に舌を這わせたままそう言うと、クリトリスを押し潰すように更に力を込めた♡

そうされると夢子の全身へじわりと気持ちいい波が広がる♡

体がのけぞってしまう♡

「……あ、あ” ツ♡♡ん、あ”♡♡い、きそ…♡♡これ、イっちゃ、」

握りしめた拳を震わせて♡♡

「——あ” ツツ♡♡いくっ、いく♡…………ツツツ！♡♡」

ビク、ビクビクビクッ……♡♡♡

ビク♡

ビクッ♡

「……はっ♡…っ♡は、っ♡」

絶頂した夢子の体が小さく痙攣する♡

その夢子の足を開かせた大翔はそこへ体を押し込んできた♡

(あ…♡)

いつもの仕草♡

何をするのか分かって夢子は自らも足を開く♡

足の間へ顔が近づいてきて、太ももの内側に大翔の頬が触れた♡そのまま更に進んできて♡

大翔の舌は夢子のクリトリスを覆うように押し付けられた♡

「…………っ♡♡」

絶頂したばかりの神経の粒を包まれて身震いする♡

背中をくすぐったいような感覚が何度も走り抜けてい

った♡

ずり♡ずり…♡

ぬる♡ぬるる♡

舌を押し付けたままその舌が蠢いている♡

「…あっ♡あ、あん♡♡」

あやすような、まだ優しい動き♡

強すぎない心地いい刺激に夢子が声をあげると、

「じゃあ、俺は今度乳首♡」

夢子の舌を絡め取っていた舌で舌舐めずりした圭佑は、
夢子を寝かせるとその胸元へ顔を下ろしてきた♡

器用に動いていた舌先が今度は乳首に沿わされて♡そ
の勃起を辿るように根元から先端へ滑る♡

「ふ…、っく♡♡」

ピンポイントに乳首を狙われて脇腹がぴりぴりする♡

体がじっとしていられなくてくねらせていると、今度
は響の唇が近づいてきた♡

息の漏れる夢子の唇を塞ぐように重ねられて♡唇を啄
みながらまた舌が入ってくる♡

「うんっ♡ん” ツ♡」

イったばかりなのに♡

舌に絡まる舌♡

舌に弄ばれる乳首に♡舌で覆われずりずり♡と甘やか
されるクリトリス♡

また全部刺激されると気持ちいい感触を追うことで頭
がいっぱいになってしまう♡♡

「ふ……♡♡あ、っ♡♡」

夢子がとろけるように喘ぐと、

きゅっ♡♡

「…あ”、ツ！♡♡」

響の指が空いていた片方の乳首を軽く摘んで♡♡

しこ、しこ♡

と上下にしごき出した♡

「っあ♡♡ん” ツ♡♡う、あ”、あッ♡♡アッ♡♡」

夢子の舌を舌で捕らえている響は、至近距離で夢子の
表情を伺いながら乳首をしごいている♡

しこしこ♡♡しこしこしこ…♡♡

小さな勃起を♡程よい強さで挟んで♡♡

しこしこしこしこ♡しこしこしこしこ♡♡

「うああッッ♡♡あ、んあッ♡♡…ッ、♡♡」

反射的に腰が浮いてしまう♡

今までよりも強いその刺激に逃げようとしてしまう♡
♡

「気持ちいいね～、乳首しこしこ♡ってされるの♡♡」

「……ッッ、ん♡♡き、きもち……、♡♡」

「じゃあ俺ももうちょっと強くしてやるっか♡」

ぢゅ……ッッ♡♡♡

もう片方の乳首を舌で弄んでいた圭佑まで♡

勃起の根元を窄めた唇で吸って、それからそのまま先端へずるる…♡と吸い上げた♡♡

「は…ッッ、あッ♡♡♡」

また胸を突き出してのけぞる♡♡

両方の乳首に、違う刺激♡♡

ぢゅ、ぢゅぽ…♡♡

ぢゅぽ、ぢゅぽ、ぢゅ、っぽ♡♡

「あ、あ、っ、あ、ああ…ッ♡♡」

勃起乳首が唾液を纏わせた唇でしごかれている♡♡

根元から丁寧に先端まで移動して、音を立てて解放さ

れて♡

「ちゃんとかっちも感じててよ♡」

響も夢子の意識を自分の指へ向けるように親指と人差し指で乳首を圧迫して、上下にしごいた♡♡

しこしこしこ、しこしこ♡♡

しこ、しこ、しこ、しこ♡♡

「はあ` アッ♡♡あ、ア`、ッ♡♡あ、んっ♡♡」

更に夢子の舌も吸い上げる♡♡

「ずるいなー…、俺も♡♡」

「…は、ア` ッ♡♡」

二人の間で快感に体を振る夢子のクリトリスに、負けじと吸い付く大翔♡♡

皮ごと口に含んで♡

ぢゅっ♡ぢゅ…うっ♡♡

と吸い上げて♡

ぢゅううう……………ッ♡♡

と根元を圧迫する♡♡

そうされると強調されたクリトリスの先端を吸われて熱くなる♡♡

（あ、これ♡また全部気持ちよくされてる♡♡さっきよりも強く♡舌も乳首もクリも♡♡三人がかりで…♡♡）

ぢゅぽ♡ぢゅぽ♡ぢゅ、ぢゅっ♡ぢゅぽ♡
しこしこしこしこ♡しこしこ♡しこしこしこ♡
ぢゅううっ♡♡ぢゅっっ♡♡ぢゅ…ツツ♡♡
両乳首もクリトリスも唇と指でしごかれ、舌も吸われて♡♡

「んあ`、アツ♡♡は、……ツあ♡あ、ア…ツ♡う、ん…ツツ♡♡♡」

夢子の体は引き攣っていく♡
一度達したせいで簡単にはイけそうにない、はずだった♡
なのにどれだけ体を振っても逃がせそうにない快感が体へ蓄積されていく♡
手も足も指先がぎゅっと丸まって小さく震えて♡

ぢゅぽ♡ぢゅぽ♡ぢゅぽっ、ぢゅっ♡ぢゅ…ツ♡♡
しこしこしこしこしこしこしこしこ……♡♡
ぢゅっ♡♡ぢゅ、ぢゅ…ツ♡♡ぢゅうっ♡♡ぢゅっ、ぢゅっ、ぢゅっ♡♡

しつこく責められて、食いしばった歯がカチカチと鳴る♡

それを見た大翔は夢子の限界に気付いたらしい♡
一度クリトリスから唇を離し舌舐めずりすると、

ぢゅ……ッ♡♡♡

きつくクリトリスを吸い上げて♡

ぢゅろろッ♡♡

ぢゅッ♡

ぢゅろろッ♡♡

ぢゅッ♡

ぢゅろろッ♡♡

フェラチオするように唇でクリトリスをしごき始めた
♡♡

「ッッひ♡♡あ” っア” ッッ♡♡♡」

鋭い快感を叩き込まれ足が跳ねる♡

その足は大翔に押さえ込まれてしまい、夢子はその強い快感を受け入れるしかない♡

ぢゅぼっ♡ぢゅぼっ、ぢゅっぢゅッ♡♡ぢゅ…うッ♡
♡♡

しこしこしこしこしこしこ…ツツツ♡♡

ぢゅッ♡♡ぢゅろろツツ♡♡ぢゅッ♡♡ぢゅろろツツ
♡♡♡

「…だ、だめ、ツ♡♡♡また、いく♡ぜんぶ♡きもち
……ツ♡♡♡う、あ” ……ツツ♡♡♡」

蓄積された快感に押されるようにまた体がしなる♡
クリトリスも乳首も差し出して、舌はしつこく絡め取
られ♡♡

「い、く…っ♡♡♡いく…、またイクっ♡♡♡…………っ、
…あ”、あ” ……ツ、ツツツ！！♡♡♡」

頭がクラクラする♡

普段のセックスでこんなにすぐ二回目の絶頂を味わう
ことなんてない♡

一度目よりも快感が大きくて絶頂後のふわふわした感
覚も強かった♡

ソファに手足を投げ出し夢子は息を整えるのに精一杯
だ♡

「いつもよりすっごく感じてるよね、俺も興奮してきた…♡」

その夢子の足の間、大翔が体を起こし服を脱いでることに夢子は気付かなかった♡

足を持ち上げられ素肌に素肌が触れて気付く♡

大きくなった大翔のものが既に入ってこようとしている♡

「あ…、待って」

休憩が欲しい。

そう言おうと思っても遅かった♡

ぐ…、ぶ♡

亀頭が入り口を広げるように入ってきて、そのまま一気に、

ずちゅ♡ずちゅ、ちゅ…♡♡

入ってきてしまったのだ♡♡

「んっ、ん` ん、う` んん…ツツ♡♡」

触られていなかったナカに太いちんぽの感触♡

イったばかりの敏感になっているところをこじ開けられて夢子は喉をそらせた♡

休憩したい、ひとしきり喘いで喉もカラカラだし、何よりもう気持ちいいなんて感じないかも……

「ちんぽ挿れられたままクリいじっててやるな♡」

カリッ♡♡

「ん` あ` ああ…！！♡♡♡」

(な、なんで……♡♡♡)

圭佑が横からクリトリスに手を伸ばしてきて引っ搔くから、夢子の体は縮こまった♡

「あはは、すごい声♡」

「クリ好きすぎ♡」

「根元から～♡皮は避けて…♡」カリッ♡「こう？♡」
カリカリッ♡

「う` 、ツツ♡♡あ` 、ア` ツツ♡♡♡」

「まんこ締まるね、これいいかも…」

ずちゅ…う、ぐちゅ♡♡♡

奥までちんぽを押し込まれ♡

カリカリッ♡カリカリカリッ♡♡

クリトリスを根元から爪先で引っ搔かれて♡

「ひ、あゝ…ツツツ♡♡」

「まんこ狭くて気持ちいいー…♡動いちゃうね」

「っあ、待って、ま… あゝ ツツは、ア♡♡♡」

……ぱんっ♡

ぱん♡

ぱん♡

ぱん♡

足を折りたたまれ股間に大翔の腰がゆっくりとぶつかり始める♡

その間もクリトリスは圭佑の指に引っ搔かれ♡

「はッあゝ…♡♡あ、アゝ ツ♡♡あゝ う…ツ♡♡♡」

お腹の奥と、クリトリスの根元が、まるで発火したように熱い♡

弱々しい力で大翔の体を押し返そうとする夢子の手を
圭佑と響が奪ってソファに縫いつけた♡

ぱんっ♡ぱんっ♡ぱんっ♡ぱんっ♡
「はッ♡あッ♡あ`っ♡♡あっア♡♡」
カリカリカリッ♡♡カリカリカリカリ…♡♡
「ア` ああっ♡♡あ…ッん`♡♡ア`ッ♡♡あッ♡」

まだ激しくない大翔の打ちつけが、次第に余裕がなくなっていく♡

夢子を見下ろししっかりとその腰を掴んで大翔は腰を
前後にグラインドさせている♡♡

休憩したかったはずの夢子は腕を掴まれ腰を掴まれ、
またひたすらに快感を与えられるだけだった♡♡

ぱんっ♡♡ぱんっ♡♡ぱんっ♡♡ぱんっ♡♡ぱんっ♡
♡ぱんっ♡♡ぱんっ♡♡

カリカリカリカリカリ…♡♡カリカリカリカリカリカ
リカリッ♡♡

ぱんっ♡♡ぱんっ♡♡ぱんっ♡♡ぱんっ♡♡ぱんっ♡
♡ぱんっ♡♡ぱんっ♡♡

カリカリカリッ♡♡カリカリカリカリカリカリ…♡
♡♡

「ひ、ッ♡♡うゝ、っあ♡♡あ、あっ♡♡」

「待ってとか言って…、気持ちよくなってるくせに♡」

「クリももうパンパンになってるぞ」

「こっちも勃起しっぱなしだし♡」

ちんぽを打ちつける大翔、クリトリスを引っ搔く圭佑、
そして今度は響が、夢子の胸元に顔を寄せて♡

勃起したままだった乳首にまた吸い付く♡ちゅぽっ♡
とわざと音を立てるように♡♡

「や…っ、またぜんぶ、はだめ…ッ♡♡♡」

「あ～～…まんこ締まる…ちょっともう我慢できないかも、」

「…え、」

乳首を吸われ夢子がそれに体を反応させると、大翔は
そう呟いて夢子の腰を抱え直した♡

そして、

ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡
ぱんっ！♡♡

揺らしていた腰を激しくぶつけ始める♡♡

ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡
ぱんっ！♡♡

夢子の体もその衝撃で揺れた♡♡

腕が二人に掴まれていなければずり上がってしまいそうなほど♡♡

ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡

「んあ`ッ♡♡あ、あ`ッッ♡♡♡あ、はア`ッ♡♡♡や、…ッ♡♡あ`アアッ♡♡」

体の奥にちんぽの先がぶつかっている♡♡

その度に熱い快感がお腹の中に広がって♡♡

それが気持ちいい♡♡気持ちよくなってしまう♡♡

ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡

「んあアッ♡♡あ、あああんッッ♡♡あっ♡♡アッ♡♡は、アッ♡♡」

「クリももっと強くしてやろうなあ♡」

「乳首も、もっと吸ってもいいよね♡♡」

「あ…、そん、な♡♡…あっ♡♡♡あ、ッ♡♡♡」

カリカリカリカリカリッ♡♡♡カリカリカリカリカリカリカリ♡♡♡

「ひあ` ッッ♡♡♡ア、あ、う` っ♡♡♡んう…ッ♡♡♡」

細かなストロークで勃起クリトリスの幹を上下に擦られ♡♡

ぢゅ〜〜〜〜〜〜…………♡♡

「は、…………あ、アッ♡♡」

絶妙な強弱を付けながら乳首の根元から先端までを吸い上げる唇は、

っぽ！！♡♡♡

「ッッあ、…………ッッッ♡♡♡」

先端で音を立てて解放して、

ぢゅ……っ！♡♡♡

「う、ん` ……………んん` ッッ♡♡♡」

また吸い付いて♡それを繰り返す♡♡

（また気持ちよくなっちゃってる♡♡三人に全部気持ちよくされて…今度はおまんこにおちんぼ挿れられて♡♡♡気持ちいい、これ気持ちいい♡♡♡）

ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡ぱんっ！♡♡

カリカリカリカリカリッ♡♡♡カリカリカリカリカリカリカリ♡♡♡

ぢゅ〜〜〜〜〜…………♡♡ っっぽ！！♡♡♡ぢゅ
ゅう…………♡♡♡っっぽ！♡♡♡

「ふッ♡♡♡う、うゝ ううう〜〜〜〜…………ツツツ♡♡
♡」

顎が上がって行って♡

喉をそらす♡

気持ちよくて体が言うことをきかなくて♡♡

ちんぽの先がぶつかる体の奥から力んでしまう♡♡

「…夢子、イきそうだね♡一緒にイこ♡♡」

「う、ツうゝ、ん♡♡♡あゝ、んゝ ……………っ、ツツ♡♡
♡い、く♡♡♡いく、う♡♡♡」

(イったばっかなのに♡♡今度は乳首とクリとおまんこ
で♡♡いく♡♡いくっ♡♡いくっ♡♡気持ちいいのどん
どん大きくなる…！♡♡♡)

「ほら、クリめちゃくちゃにしてやるからイけ♡」

カリカリカリカリカリカリカリカリカリカリッ♡
♡♡

クリトリスを押し潰されながら爪で擦られ♡♡♡

夢子はまたのけぞった♡♡♡

「っあ、それッ♡♡♡だめッイく、いくいくいく…！
！♡♡♡イく……………ツツツ！！♡♡♡ん” ツあああアア
ツツツ！！♡♡♡」

「あっは、まんこやば…♡♡♡」

ぱん…！♡♡♡

ぱん♡♡ぱん♡♡

大翔が絶頂の最中のおまんこへ腰を押し込む♡♡
ナカで何度か震えてずるりと引き抜くと、今度は間髪
入れずに圭佑が夢子の腰を乱暴に掴んだ♡♡

「……っ！待って、ちょっと休憩…」

「うるせーよ、ちんぽ三本あるんだぞ♡♡」

ぬ、ぢゅ♡

ばこ…っ！♡♡♡

「……………〜〜〜〜ツツツ！！♡♡♡」

太いものが一気に入ってきて夢子の体が痙攣する♡

ビリビリと痺れるような感覚が全身を包んで動けない
♡

ろくに抵抗のできない夢子へ、圭佑は最初から遠慮なくピストンし始めた♡♡

夢子の腰を上げさせて上から打ちつけるようにちんぽを叩きつける♡♡

ばこ、ばこばこっ、ばこばこばこばこばこばこ…！！
♡♡♡

体重をかけられるせいで深いところまでちんぽが抉ってくる♡♡

それも短いストロークで小刻みに♡♡

「ふッッう♡♡んッ♡♡うあ♡♡あ♡♡っ♡♡ア♡♡ッ♡♡♡」

ばこばこばこばこばこばこばこばこばこ…！！♡♡♡

「あ〜〜…♡♡イったばっかのまんこ最高♡♡」

ばこばこばこばこばこばこばこばこばこ…！！♡♡♡

「あ♡♡ん♡♡ん♡♡ッ♡♡♡ア♡♡っ、あ♡♡♡は、ふう♡♡♡」

ばこばこばこばこばこばこばこばこばこ…！！♡♡♡

内臓を押し上げられるような感覚がして声が勝手に漏

れ出る♡♡

強烈な奥への刺激に夢子が顔を歪ませているとその顔を大翔が撫でた♡♡

「がんばれ♡♡キスしててやるから♡」

そう言われても正直キスをする余裕なんかない♡

それでも大翔は夢子の口を開かせると舌を差し込んできて♡

ぬる…♡♡

夢子の舌を絡め取り外へ誘い出した♡♡

「ふ、う”♡♡あ、あ” —……ッ♡♡♡」

舌が絡んだまま上下する♡♡

根元から先端まで撫でて、また奥まで戻って♡♡

大翔とは普段からキスしているけれどこんなされ方、したことがなかった♡♡

夢子は圭佑のちんぽに揺らされながらいつの間にか懸命に応えていた♡♡

「じゃあ～…俺はやっぱここかな♡♡ここ、ちんぽみた

いにしごいてあげるね♡♡」

「……っ！♡♡」

「まずはゆっくり…♡♡」

響の細い指がしっかりと皮ごとクリトリスを挟んで♡
♡

ちゅこ…っ♡♡ちゅこ……♡♡

と上下に動く♡♡

「……ツツ♡♡あゝ、っ♡♡♡」

(あ〜〜〜〜ツ無理♡♡クリされたら無理なんだって…
♡♡♡)

ちゅこ…♡♡ちゅこ…♡♡

まだゆるい動き♡

それでも圭佑に開かされた足の内ももが震えてしまう
♡♡

「だんだん早くしようね～♡♡」

ちゅこ、ちゅこ、ちゅこ、ちゅこ♡♡

ちゅこ、ちゅこ、ちゅこ、ちゅこ♡♡

「ふ、…………ツツ♡♡うゝ♡♡ん♡♡」

響の指のストロークが早くなる♡

圭佑にピストンされながら、大翔に舌を捕らわれながら♡♡

夢子は響の指に集中してしまっていた♡♡

ちゅこっ、ちゅこっ、ちゅこっ、ちゅこっ♡♡

ちゅこっ、ちゅこっ、ちゅこっ、ちゅこっ♡♡

「う`♡♡ふう、ん`…ッ♡♡♡うう`っあ`♡♡♡」

「ほら、もっと早くするよ〜♡♡」

ちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこ…♡♡

ちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこ…♡♡

「う`、う〜〜……ッ♡♡♡ん`っふ♡♡あ`アあ`っ♡♡♡」

「もっと♡♡」

ちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこッ♡♡♡

ちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこッ♡♡♡

「ん`んあ`ああッ♡♡♡」

「おまんこめちゃくちゃ力んでる♡♡良すぎ♡♡」

「夢子♡がんばれ♡♡」

「もっとイこっか♡♡」

ちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこ！！♡♡♡

「……………ッ” ッ” ッ” ！！♡♡♡」

繊細だった響の指が♡

めちゃくちゃに夢子のクリトリスをしごく♡♡

ばこばこばこばこばこばこばこばこ…！！♡♡♡

ちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこ！！♡

♡♡

ばこばこばこばこばこばこばこばこ…！！♡♡♡

ちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこ！！♡

♡♡

「あ” ……ッッッ！♡♡あああ” っ、ッあ” ～～～♡♡

♡あ、ッア” ♡♡あ、ア” …ッッ！♡♡♡」

圭佑のピストンに合わせるような乱暴なストローク♡

♡

痛いくらいに勃起したクリトリスを擦られまくって夢子は足をピン♡と伸ばして引き攣った♡♡

(なにこれきもちよすぎ…！♡♡やばい、クリ壊れる♡

♡ちんぽでばこばこ♡されながらクリしごかれるの♡♡

やっぱ…っ♡♡♡)

大翔へ舌を突き出したまま夢子の目があまりの快感に
白黒する♡♡

下半身は圭佑にされるがまま、上半身は無防備に投げ
出して♡♡

夢子の体はまた絶頂を予感していた♡♡

(きもちよくなっちゃう、こんなの…♡♡♡おまんこも
クリもずっとされるんだもん、たえられない……！♡♡
♡)

ばこばこばこばこばこばこばこばこ…！！♡♡♡
ちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこ！！♡
♡♡

ばこばこばこばこばこばこばこばこ…！！♡♡♡
ちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこ！！♡
♡♡

「ふッ あ”っ♡♡♡あ”♡♡あ、はア”ッ♡♡♡また、い”く”……ッ♡♡♡イ”っちゃ、う”う”う……
♡♡♡」

ばこばこばこばこばこばこばこばこ…！！♡♡♡
ちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこ！！♡

♡♡

ばこばこばこばこばこばこばこばこ…！！♡♡♡

ちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこ！！♡

♡♡

「い ……ツツ♡♡♡く、っ！♡♡♡いくっ！♡♡あ”、
ア” ……ツツツ！！♡♡♡………ツア” ああ………ツ” ツ
” ツ” ！！♡♡♡」

ガク…♡♡♡

ガクガクガク…♡♡

体が今までに体験したことがないほど跳ねる♡♡
瞼の裏がチカチカして汗が噴き出て♡焦点も定まらな
い♡

「すごいイきっぷり♡」

「夢子えっちなこと大好きだもんな♡」

「夢子ちゃん、まだ俺のちんぽあるんだからね～♡♡ほ
ら…、」

ぐったりとソファに沈む夢子の体を、今度は響が抱え

る♡

夢子の体をひっくり返し四つん這いにさせてすぐにお尻に自らのちんぽを擦りつけた♡

またすぐに挿れられる♡♡

休ませてもらえない♡

「…ね、待って、すこし休憩、」

「やだ♡♡」

ぐぬ♡♡

ちゅ、ぐちゅっ♡

「うゝ、ん……………っ」

「まんころっとな〜♡こんなの腰動いちゃう♡♡」

ぬ、ぬこっ♡

ぬちゅ、ぬちゅ、ぬちゅ、♡♡

すぐに奥に押し込まれたちんぽが、短いストロークで奥を突いている♡

大翔にも圭佑にも突かれてほぐされた、ちんぽが当たるとどうしても気持ちよくなってしまふところ♡♡

響のちんぽが当たるたびにそこから快感がまた滲み出

てくる感覚がして、夢子は怖くなってしまった♡♡

「む、むり…、もうイけない、もう気持ちよくなれない
…っ」

顔をソファに突っ伏して泣き声のような声をあげると、

「大丈夫、手伝ってあげるから♡」

大翔がその頬を撫でながら顔を上げさせた♡

そして唇が近づいて今にも泣き出しそうな夢子へキス
をする♡

唇を合わせてまた舌で舌をあやして♡そうしているう
ちにその大翔の手は夢子の胸元へ滑りこんできて♡

くり♡

くり、くり♡

「…んん” ツツ♡♡」

両乳首をこねた♡♡

くりくり♡くり、くり、くり…♡

「ん” ツ” ツ” ♡♡や、あ…っ♡♡」

胸の先端からビリビリと背中へ快感が走る♡♡

それでも、

「や、だ♡♡やだやだ♡♡もうむり…♡♡」

夢子が音を上げると今度は圭佑がクリトリスへ手を伸ばして♡

「ほんとに？」

しこしこしこしこしこしこしこ…♡♡

「ん` あ` ~~~~~ッッッ♡♡♡」

最初から勢いよくしごきだす♡♡

くり♡くりくり♡

くりくりくりくり♡♡

四つん這いにさせられて♡伸びる薄い皮膚を刺激するように乳首をこねくり回され♡

しこしこしこしこしこしこしこ…♡♡

しこしこしこしこしこしこしこしこっ♡♡

まるでちんぽを射精促進するようにクリトリスをしごかれ♡

「は…ア` ~~~ッッ♡あ` 、 あっ♡♡あ` アア` ~~~
……ッ♡♡♡」

情けない声を上げる夢子の唇を大翔が食む♡♡

「おまんこは？どこが気持ちいいの？♡♡」

ぬこっ♡♡ぬこ…っ♡♡ぬこっ♡♡ぬこっ♡♡ぬこ…

っ♡♡

ピストンしながらナカを探るようにちんぽを動かされると、

「ふ…う” うッ♡♡」

夢子の腰がぴくぴくと小さく震える部分を見定められ♡

「…ここ？♡♡こう？♡♡」

とちゅっ♡♡とちゅっ♡♡とちゅっ♡♡とちゅっ♡♡
「ひ、あ” ツ…あ” アっっ♡♡♡」

そこばかりを的確にちんぽで突かれる♡♡♡

もう何回目か♡

また全部気持ちよくされてしまう♡♡

とちゅっ♡♡とちゅっ♡♡とちゅっ♡♡とちゅっ♡♡
とちゅっ♡♡

くりくりくり♡くり♡くり♡くりくりくり♡♡

しこしこしこしこしこっ♡♡しこしこしこッ♡♡

「……ア” うっ♡♡ん”、ん” ツ♡♡」

とちゅっ♡♡とちゅっ♡♡とちゅっ♡♡とちゅっ♡♡
とちゅっ♡♡

くりくりくり♡くり♡くり♡くりくりくり♡♡

しこしこしこしこしこっ♡♡しこしこしこッ♡♡
「あッあッ、ッッ♡♡♡はアッ、ア〜〜……ッ♡♡♡」

「クリちんぽ、フル勃起じゃん♡」
「乳首もパンパン♡」
「おまんこだって♡自分で腰の位置調整しちゃってるの気付いてる？♡♡気持ちいいことには逆らえないね〜♡♡」

(……なんで♡なんでずっと気持ちいいの♡♡こんなに何回もイったことない♡♡気持ちいいのが終わんないの知らない♡♡)

「あッ、あ〜〜〜……ッ♡♡♡あッ♡♡♡……ッッ♡♡♡あ、アッあッアあ……ッ♡♡♡」
「夢子、すごい顔♡こんな顔初めて見た♡♡」

みっともなく開きっぱなしの口♡
それでも大翔が愛おしそうに舌を絡めてくる♡
それに応えることももうできない♡夢子は自分の体を支えるだけで精一杯だ♡♡

「もっと気持ちよくなろうね〜♡♡」

どちゅ！♡♡

響が思いっきり奥へちんぽを押し込む♡♡

「ふっう`！♡♡♡」

おまんこの奥♡

快感が滲み出てくるところを潰されて夢子の視界がチ
カチカと瞬く♡

どちゅ！♡♡どちゅ！♡♡どちゅ！♡♡どちゅ！♡♡

どちゅ！♡♡

「う` ツん` ツツツ♡♡♡う、あ` ……ツ♡♡♡」

どちゅどちゅどちゅどちゅどちゅどちゅどちゅ…！！

♡♡♡

「うあ、あ` ああ` ツ` ツ` ♡♡♡」

「あ～～♡♡夢子ちゃんのおまんこ最高♡♡」

夢子の腰を掴んだ響が激しく腰を動かす♡

斜め下から突き上げるように、夢子の気持ちいいところ
を目掛けてハードピストン♡♡

どちゅどちゅどちゅどちゅどちゅどちゅどちゅ！！♡

♡♡

どちゅどちゅどちゅどちゅどちゅどちゅどちゅ！！♡

♡♡

ガクガクと揺れる体♡

それでも圭佑はクリトリスをしごき続けるし、大翔は乳首を引っ張るようにこねくり回している♡♡

ちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこ
ツツ♡♡♡

ぐりぐり♡♡くりくりくりくり♡♡ぐりぐりぐりぐり
ぐり♡♡

「はツツあ♡♡♡あ” ～～～～ツツ♡♡♡あ” あ
アアっ♡♡♡」

どちゅどちゅどちゅどちゅどちゅどちゅどちゅ！！♡
♡♡

どちゅどちゅどちゅどちゅどちゅどちゅどちゅ！！♡
♡♡

ちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこちゅこ
ツツ♡♡♡

ぐりぐりぐりぐり♡♡くりくり♡♡ぐりぐりぐりぐり
ぐり♡♡

「も、…………だめ、いくっ♡♡♡いく、いくっ！こんな、
の、むり…………い” ツツ！！」

強烈な快感から逃げたくて足がバタバタと跳ねる♡♡

「むりっ♡♡♡むり、いくっ♡♡♡い” く” ツツ♡♡♡

いくいくいくいく…！！♡♡♡い” ………、……ッ” ッ
” ッ” ！！♡♡♡

どちゅどちゅどちゅどちゅどちゅどちゅどちゅ！！♡
♡♡

「俺も出る…♡♡」

どちゅ、……どちゅ♡♡♡

お尻に食い込むほど腰を押し付けて吐精する響♡
ちんぽが抜けるのと同時に夢子の体もソファへ崩れた
♡

(な……、？なんだったの、これ…♡こんなセックス、
信じられない…♡三人に体いっぱいじられて、三回も
ちんぽ挿れられて、こんな…)

自分の心臓の音がうるさくて、落ち着けようと大きく
深呼吸を繰り返す♡

三人のちんぽを受け入れて、夢子はこれでもうこのセ

ックスは終わったのだと思った♡

「まだ終わりじゃねえぞ」

うつ伏せに寝たままの夢子の腰を大きな手が掴む♡
軽々と持ち上げられお尻に硬いものが当たって夢子は
ビクついた♡

ぐぼ…っ！♡♡♡

「…………っ！？」

そして夢子が振り返る間もなく、太く硬いちんぽが埋
められる♡♡

圭佑はそのまま夢子の腰を自らへ引いてちんぽを奥ま
でびったりと埋めてしまった♡♡

「…ま、ま、って」

もうさすがに。

受け入れられそうにない。

体力なんてとっくに枯れた、声も掠れるほど。

だけど、

「夢子ちゃんの好きなここ、してあげてもだめ？♡♡」

再び四つん這いにされた夢子の体の下へ上半身ごと潜り込んだ響が、

勃起して皮から露出していた生のクリトリスに

ぢゅぽ！♡♡♡

と吸い付くと、

「——ん” おっ！？♡♡♡」

夢子はその衝撃に低い悲鳴を上げ、目を見開いて体をピンと突っ張らせた♡♡

「おあ、あ…………、それ、だめ、かも」

突っ張ったまま、内ももがぶるぶると痙攣し始める♡



「生クリいいんだ～♡♡いっぱいフェラしてあげる♡♡♡」

ぢゅ…！♡♡

「ほ、……っ♡♡♡」

ぢゅッ、っっぽ…♡♡♡

「っお”、お♡♡」

ぢゅううう…………ツッぽ！♡♡♡

「ほッッお”！♡♡♡」

体がのけぞる♡♡

上半身が弾かれたようにしなって、そこで大翔に捕まった♡

「フェラそんなに好き…？♡♡乳首もフェラしてあげるね♡♡」

夢子の体を支えながら近づいてきた唇も、

ぢゅッぷ♡♡

「んおッ♡♡」

勃起した乳首の根元を締め上げて、そのまま先端へ引っ張りながら♡♡

ぢゅろろっ♡♡♡

吸い上げていく♡♡

「ほッお、お〜〜〜ッ♡♡♡」

「すっげえ声♡ド淫乱じゃん♡♡おまんこもちゃんとちんぽで突いてやるからな♡♡」

(すごい♡♡もう無理なのに♡♡気持ちよくなれないはずなのに♡♡ずっと気持ちよくされる♡♡勝手に声出る…♡♡♡)

ぬ”、こっ♡♡

「ん” ツ♡♡♡」

太い亀頭がおまんこの奥に叩きつけられて♡

ぬ” こっぬ” こっぬ” こっ♡♡♡

「ほッ♡♡お♡♡オ♡♡」

おまんこの壁をえぐりながら動く♡

ぬ” こっぬ” こっぬ” こっぬ” こっ♡♡♡

「おッ♡♡んオっ♡♡おッ♡♡お”♡♡」

ぬ” こぬ” こぬ” こぬ” こぬ” こぬ” こ…!♡♡♡

「ほオッ♡♡お” ツ♡♡ンオッ♡♡お”、ツ♡♡♡」

ぬ” こぬ” こぬ” こぬ” こぬ” こぬ” こぬ” こぬ” こぬ” こ…!♡♡♡

「ん” ん” ツツ、んお” お” 〜〜……ツ♡♡♡」

腰を掴まれガン突きされて♡♡

乳首もクリトリスもフェラチオされて♡♡

焦点の合わない目から涙が溢れていく♡

自分の体なのに何も制御できない♡

ただただ快楽を叩きつけられそれに潰される♡♡

■ 続きは製品版にて♡